ホッカンホールディングス決算説明会

証券コード：5902

2007年12月3日

ホッカンホールディングス株式会社

目次

代表取締役社長　　永井　勝己　　**常務取締役　　工藤　常史**

連結業績概況

連結業績概況 ・・・・・ 3

成長戦略　－　中期経営計画　－

飲料業界の特徴 (1) ・・・・・ 5
飲料業界の特徴 (2) ・・・・・ 6
ＴＰＳ事業構想 ・・・・・ 7
ＴＰＳのシステム特許化 ・・・・・ 8
ＴＰＳ事業のための方策 (1) ・・・・・ 9
ＴＰＳ事業のための方策 (2) ・・・・・ 10
海外事業 (期首計画) ・・・・・ 11
海外事業 (現状と将来計画) ・・・・・ 12
中期経営計画の基本戦略 ・・・・・ 13
中期経営計画の数値目標 ・・・・・ 14

2007年9月中間期決算詳細

連結セグメント情報 ・・・・・ 16
連結中間損益計算書 ・・・・・ 17
連結中間貸借対照表 ・・・・・ 18
連結有利子負債の圧縮 ・・・・・ 19
連結中間キャッシュフロー計算書 ・・・・・ 20
連結決算見通し ・・・・・ 21
連結設備投資 ・・・・・ 22

【参考】会社概要

プロフィール ・・・・・ 24
沿革 ・・・・・ 25
経営ビジョン ・・・・・ 26
事業概要 ・・・・・ 27
本社と各社工場 ・・・・・ 28

【参考】経営成績

要約連結貸借対照表 ・・・・・ 30
要約連結損益計算書 ・・・・・ 31
要約連結キャッシュフロー計算書 ・・・・・ 32

連結業績概況

連結業績概況

単位：百万円、％

	2007年度				2006年度			
	中間期実績		通期予測		中間期実績		通期実績	
		前期比		前期比		前期比		前期比
売上高	88,640	6.5	165,000	2.6	83,198	▲4.7	160,892	0.5
営業利益	3,197	26.2	3,600	▲1.5	2,532	▲9.8	3,653	4.3
経常利益	2,930	26.1	2,500	▲0.1	2,323	56.2	2,503	36.6
純利益	1,337	▲9.4	1,000	7.3	1,476	58.2	931	▲19.7

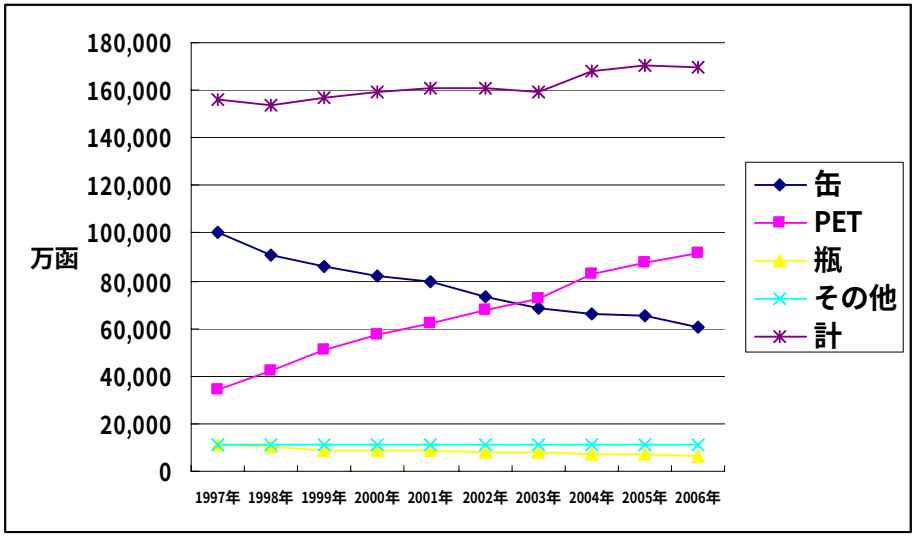
- 2007年9月中間期は6.5%増益、26.2%営業増益
- 2008年3月通期予想は2.6%増益、1.5%営業減益

当社の成長戦略

中期経営計画

飲料業界の特徴（1）

日本の飲料市場と容器別動向



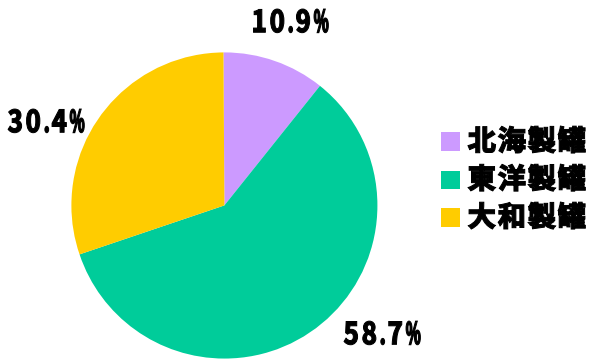
日本の清涼飲料業界において2006年の市場規模は前年並みであったが、同業界市場では今後絶対的需要の大幅な増加が見込めそうにない（少子化・高齢化他）。

飲料メーカーは、自社にて容器製造＆充填を取り組むことにより、トータルでのコスト削減を長年行っている。

受託充填業者への発注量が減っている中で、ホッカングループは容器＆充填＆段ボール＆物流の一貫したサービスを提供することにより、販売数量を増やしてきた。

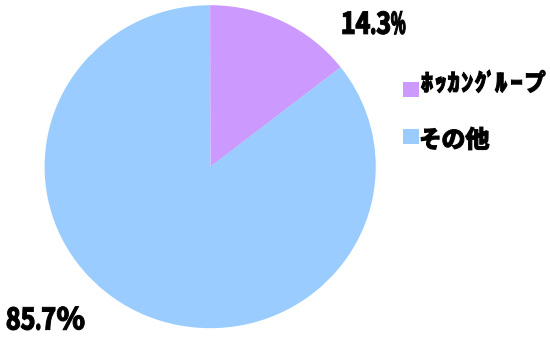
（資料は社内データ使用）

2006年飲料用スティール缶市場会社別シェア（推定）

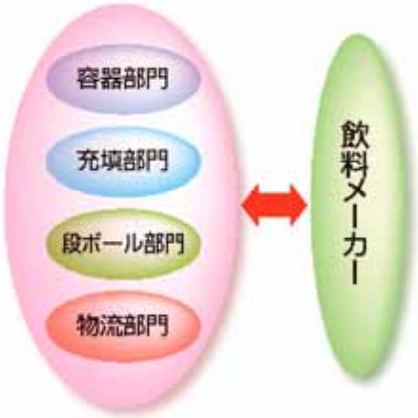


（出典：矢野経済研究所 「'06年版 容器市場の展望と戦略」）

2006年ペットボトル飲料に占めるホッカングループの容器使用シェア（推定）

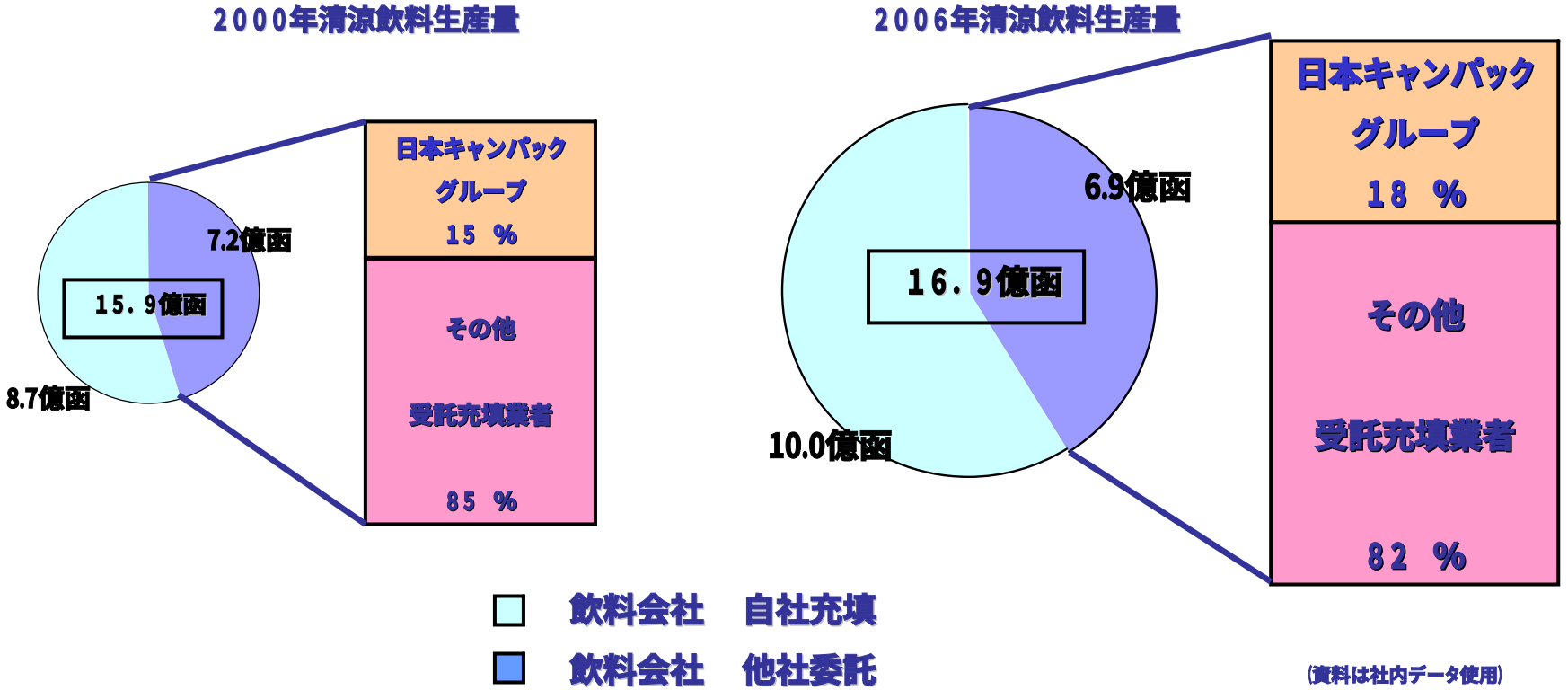


ホッカンホールディングスのビジネスモデル



飲料業界の特徴（2）

2006年　飲料業界における生産方式と受託充填業者のビジネス



（資料は社内データ使用）

ホッカングループ中核事業3社の1社である日本キャンパックは、受託充填業者No.1の会社として、飲料メーカーに対して様々なサービス（品質・価格・新製品開発・トレーサビリティ-等）を提供してきたが、今後はホッカングループ全社にてそのサービスを更に高度化したＴＰＳ事業＆ＡＬＰＳ事業をもって、全国でのネットワーク化を図っていく。

ＴＰＳ事業構想

お客様のニーズに応えたグループバリューチェーン
（ＴＰＳ：トータルパッケージングシステム）活用の提案

第一段階

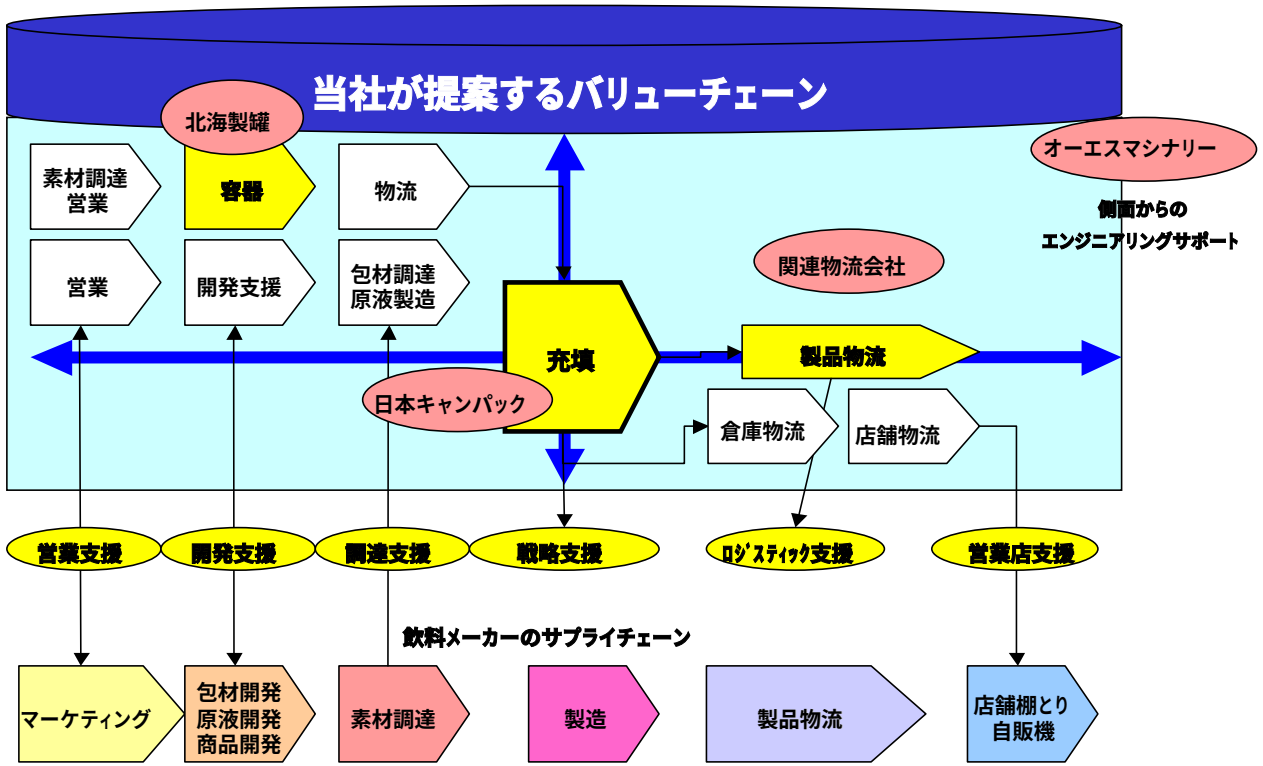
日本キャンパック　利根川工場　稼動による販売拡大
北海製罐　ＡＬＰＳを用いて容器のシェアアップ

第二段階

ＡＬＰＳボトル・充填での
供給力の拡大

→

容器⇒充填⇒物流の清涼飲料に関する
ＴＰＳを全国規模でネットワーク化



ＴＰＳのシステム特許化

お客様からの発注（変更）に迅速対応可能な生産計画（管理）システム＜ＰＳＰシステム＞の特許取得

特　許　証
特許第４０４０６０８号
株式会社日本キャンパック
堅田　重義
日原　久光
平成１６年　５月２６日
平成１９年１１月１６日
肥塚　雅博

ＰＳＰシステムの特長

迅速な生産計画立案機能⇒受注変動対応機能

- ＮＣＰでは4工場全１６ラインの生産計画を2名で立案対応
  ⇒ 1ライン1ヶ月分の計画立案が数秒で可能
- 遠隔地にある営業・生産両部門の協業による顧客要求対応のシミュレート機能（受注活動支援）
- 受注変動に対する営業活動支援機能
  ⇒　当月の製販状況が常時モニタリング可能

受注条件に合致した製品マスターの構成⇒誤受注の回避

- 容器表示の改訂など、付加部品ごとに細分された製品マスターの構成（システムによる管理）

生産計画を元に製造管理情報の現場でのＰＤＣＡサイクルによる管理運用⇒現場の「見える化」をサポート

- ＰＳＰシステムからタイムリーに実績情報を入手することで専門スタッフに頼らずに、現場スタッフによって現場の生産性向上活動の評価・実践が可能

製品物流情報トレーサビリティ情報の把握＜特許出願中＞

- 製品単体の賞味期限情報をキーとした製品1パレット毎の製造・物流履歴の把握
- 顧客先からのトレースシステムの情報要求に対応可能

ＴＰＳ事業のための方策（1）

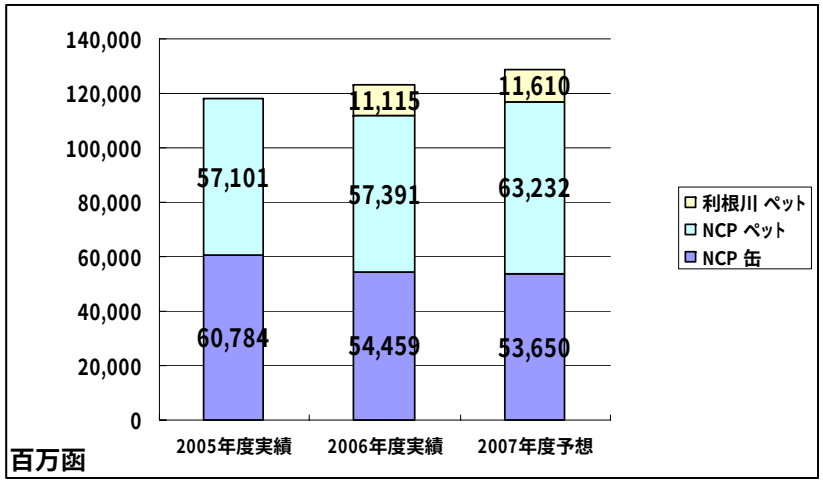
設備的方策

日本キャンパック　利根川工場

飲料容器におけるペットボトルシェア拡大、及び飲料メーカーによる製品の自社充填比率向上の影響もあり既存ラインのみでは受注量の減少が予想されたため、日本キャンパックは徹底した環境配慮のもと、ボトルの自社成形･無菌充填･包装までの一貫生産を行う無菌充填としては世界最高速の設備能力を有する最新鋭の工場を建設した。

厳しい品質基準を始めとした顧客の求める高度なサービスを提供し続けることにより、ホッカングループ充填事業の受注数量は拡大している。

今後共、既存充填ラインの海外移転も含め、日本国内での需要に合った自社保有ラインの最適活用化を図っていく。



利根川工場建設後のホッカングループ充填事業年間生産数量

利根川工場近影

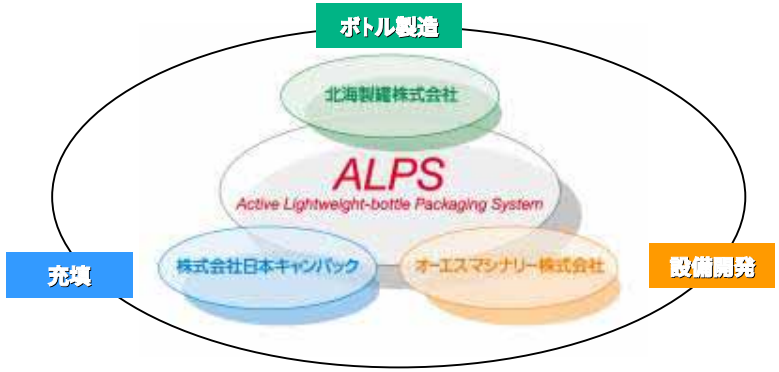
ＴＰＳ事業のための方策（2）

技術的方策：ＡＬＰＳ推進計画

次世代型軽量ＰＥＴボトル充填システム「ＡＬＰＳ」

「ＡＬＰＳ」は環境に優しいボトルを開発する一環として生まれた、軽量で
デザイン自由度の高い、次世代のＰＥＴボトル充填システム。
「北海製罐株式会社」「株式会社日本キャンパック」「オーエスマシナリー株式会社」が
専用ボトルの製造・充填・設備の開発を担当している。

『環境負荷の低減』　　**『ボトル形状自由度の推進』**



【耐熱ボトルへの展開】　　**２８０ｍｌボトル　２００６年１０月からスタート**

２５ｇ⇒１８ｇ（約３０％）への軽量化実現

【無菌充填システムへの展開】　無菌充填（ＡＳＥＰＴＩＣ充填）と融合した『ＡＳＥＰ－ＡＬＰＳ』の展開

新たに開発した『トリプルヒンジ』底部により、既存の無菌充填ラインへのスムーズな導入が可能に

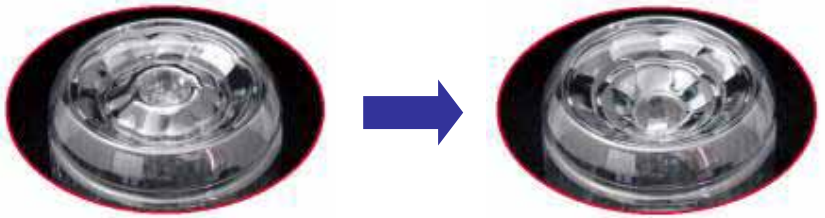
○環境負荷低減の効果　：　２８０ｍｌボトル

１８ｇ⇒１６ｇへと軽量化

○システム準備中　　：　２００８年生産開始

○既存無菌充填システムへの積極展開

ＡＳＥＰ－ＡＬＰＳとは？



底部の特殊構造により負圧を強制的に取り除くシステムです

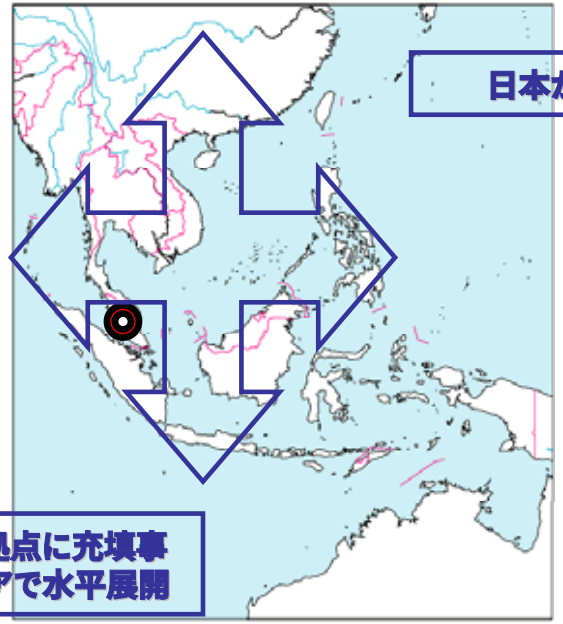
海外事業（期首計画）

海外の飲料成長市場への事業展開の検討
＜充填を核とした顧客との飲料市場の開拓＞

1996年　キャンパック･マレーシア　設立
ネスレ＆TabungHaji（マレーシア投資会社）と
共同での充填事業
⇒現地でのRTD市場の創出
⇒アジア経済危機（1997年）を克服し、0から500万函
規模の市場へと成長

10年の海外事業運営実績により、点から面の充填拠点展開へ
⇒顧客も注目する成長市場である、東南アジアを第一の検討
エリアとする
⇒自社のみでの展開だけでなく、同地域のパートナーとの事業
展開の可能性も検討中

ネスレ･マレーシアの製品群



キャンパック･マレーシア

海外事業（現状と将来計画）

マレーシアでの第2ライン増設と
ベトナムでの新規受託充填会社の立上

日本キャンパック・マレーシア

2008年7月からの商業生産に向けて、第2ラインの増設準備に着手。

年間生産量は1000万函に達する。

ネスレと協同で製品の海外輸出も増やしていく。

Kian Joo Canpack (Vietnam)

2008年第3四半期からの商業生産に向けて、現在作業中。

年間生産量は600万函。

ベトナム資本＆外資の飲料メーカー他の清涼飲料の充填を行う。

海外での総生産数量は年間1600万函

日本国内の中堅会社規模の生産を海外で展開

急成長するアジアの清涼飲料市場を中心に、
ホッカングループの海外事業進出の検討を引続き行う。

中期経営計画の基本戦略

- **飲料充填事業の強化･拡大**

  グループの中核事業としてグループ全体の成長エンジンとする

- **化成品容器事業を重点事業として経営資源の投入**

  飲料から食品･日用品への容器事業分野の拡大

- **高シェア容器事業は安定収益源として基盤の強化**

  顧客との密接したマーケティングにより新需要の開拓

- **エンジニアリング事業の自立基盤の強化**

  グループ各社のコストダウンと技術強化への貢献

  及び外販ウェイトの拡大

- **清涼飲料事業での「ＴＰＳ事業」の確立**

  充填･容器･エンジニアリング･物流の有機的統合

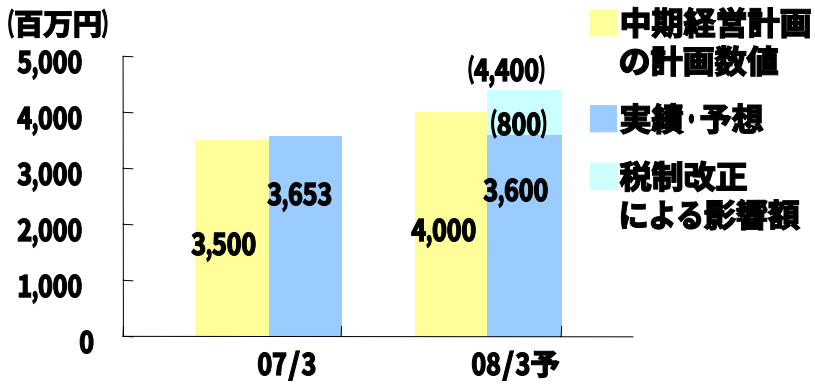
中期経営計画の数値目標

単位：億円

	2007/3 実績	2008/3 予測	2009/3 計画
売上高	1,609	1,650	1,700
営業利益	37	36	50
ROE	2.2%	2.4%	4.5%

中期経営計画 vs 2007年度実績＆2008年度予想

営業利益対比



2007年度の課題

容器事業：

生産性向上とコスト改善

充填事業：

利根川工場の安定稼動と既存工場の稼働率向上

2007年9月中間期決算詳細

連結セグメント情報

単位：百万円

	2007年9月中間期			2006年9月中間期		
	容器事業	充填事業	機械製作	容器事業	充填事業	機械製作
売上高	32,151	63,255	2,998	30,794	58,893	3,522
外部顧客向け	24,744	63,255	640	23,497	58,893	807
セグメント間	7,406	-	2,357	7,297	—	2,714
営業利益	795	2,698	99	1,434	1,454	226
消去	▲396			▲ 582		

営業利益 ：

- 容器事業は原材料高騰が大きな要因で44.6%減少
- 充填事業は利根川工場全面稼動により85.6%増加

連結中間損益計算書

単位：百万円、％

	2007年9月期	伸び率	2006年9月期	伸び率
売上高	88,640	6.5	83,198	▲4.7
売上原価	79,050	6.6	74,190	▲4.1
売上総利益	9,590	6.5	9,007	▲10.0
販管費	6,393	▲1.3	6,474	▲10.0
営業利益	3,197	26.2	2,532	▲9.8
営業外収益	378	▲43.3	667	188.3
営業外費用	644	▲26.5	876	▲43.6
経常利益	2,930	26.1	2,323	56.2
特別利益	87	▲91.4	1,008	▲77.6
特別損失	130	▲22.6	168	▲93.2
中間純利益	1,337	▲9.4	1,476	58.2

- 売上高
  5,442百万円増加
- 営業利益
  664百万円増加
- 経常利益
  607百万円増加
- 中間純利益
  139百万円減少

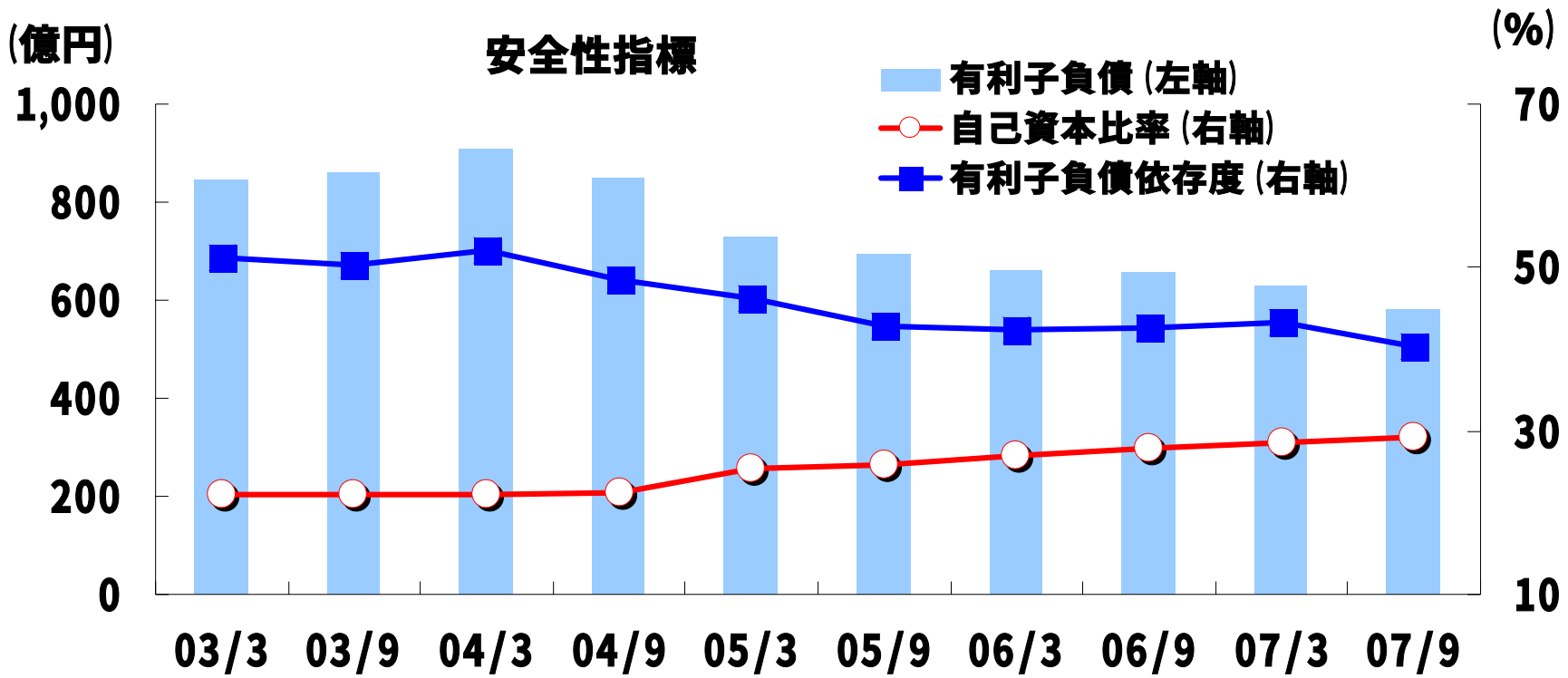
連結中間貸借対照表

単位：百万円、％

	2007年9月中間期		2006年9月中間期	
		構成比		構成比
売上債権	38,286	26.6	38,437	25.0
棚卸資産	9,481	6.6	9,175	6.0
有形固定資産	65,684	45.7	70,081	45.6
総資産	143,727	100.0	153,740	100.0
買入債務	31,268	21.8	30,230	19.7
短期借入金	33,719	23.5	36,314	23.6
長期借入金	24,287	16.9	29,292	19.1
純資産	43,148	29.3	43,493	27.8

- 総資産は100億円減少
- 有利子負債は694億円⇒580億円へ114億円減少
- 自己資本比率は29.3%と前期比1.5%増加

連結有利子負債の圧縮



- 事業の選択と集中を継続することにより、有利子負債を削減、自己資本比率の向上が続く。

連結中間キャッシュフロー計算書

単位：百万円

	2007年9月中間期	2006年9月中間期
営業活動によるキャッシュフロー	8,683	4,106
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,533	▲ 1,882
財務活動によるキャッシュフロー	▲5,459	▲ 537
現金及び現金同等物の増減額	690	1,686
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,433	7,769

- 営業活動によるキャッシュフローは売上増により46億円増加
- 投資活動によるキャッシュフローは有価証券売却（前期）なく7億円減少
- 財務活動によるキャッシュフローは借入金返済により49億円減少
- この結果、手元キャッシュは33億円減少

連結決算見通し

単位：百万円、％

	2008年3月期 予想		2007年3月期 実績	
		前期比		前期比
売上高	165,000	2.6	160,892	0.5
営業利益	3,600	▲1.5	3,653	4.3
経常利益	2,500	▲0.1	2,503	36.6
当期純利益	1,000	7.3	931	▲19.7

- 売上は充填事業を中心に2.6%増加
- 営業利益･経常利益は税制改正に伴う減価償却費負担増により前期並み

連結設備投資

単位：億円

	2004/3 実績	2005/3 実績	2006/3 実績	2007/3 実績	2008/3 予測
設備投資額	131	66	176	50	60
減価償却費	127	111	90	91	95

2007年3月期

- 容器事業：　プラスチック設備　33億円
- 充填事業：　合理化・設備更新　10億円

2008年3月期

- 容器事業：　製缶・プラスチック設備　35億円
- 充填事業：　合理化更新　15億円

[参考] 会社概要

プロフィール

商号	ホッカンホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
代表取締役社長	永井　勝己
創業年月日	大正10年10月23日
資本金	110億86百万円
事業概要	⑴ 容器事業 ⑵ 充填事業 ⑶ 機械製作事業 ⑷ その他
株式	東証一部・札証　(証券コード：5902)
本店所在地	東京都千代田区丸の内二丁目2番2号

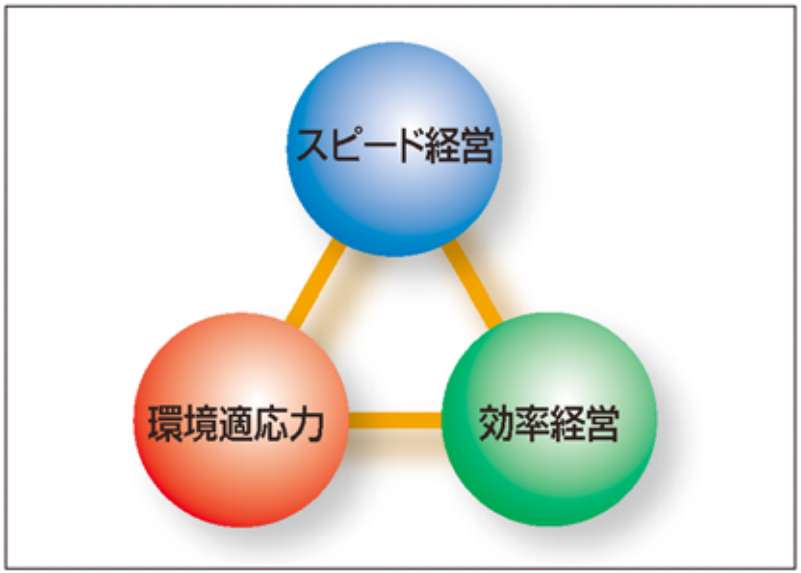
昭和２０年代の北海製罐
製造の金属缶

沿　革

1921年	北海製罐倉庫(株)創立　資本金100万円、本社小樽
1941年	製缶業者8社大合同により新たに東洋製罐(株)設立(旧北海製罐倉庫(株)は小樽工場となる)
1948年	過度の経済力集中排除法に基づき、経済力集中企業に指定される
1950年	企業再建整備計画により小樽工場およびその付属設備を分離し北海製罐(株)を設立。資本金5,000万円、本社は東京に設立　東京証券取引所に上場 小樽電解工業㈱　設立　(現昭和製器㈱)
1954年	東都成型㈱　設立
1960年	日東製器㈱　設立
1971年	北海製罐　岩槻工場竣工
1973年	㈱日本キャンパック　設立、翌年第1工場竣工
1974年	㈱小樽製作所　設立(現オーエスマシナリー㈱)
1985年	㈱ワークサービス　設立
1988年	日本たばこ産業㈱と共同出資にて飲料充填会社である㈱ジェイティキャニングを設立 (2002年に連結子会社とし、社名を㈱西日本キャンパックへ変更)
1989年	北海製罐　千代田工場竣工 日本キャンパック　第2工場竣工
1997年	日本キャンパック　赤城工場竣工
2005年	会社分割による純粋持株会社へ移行 三菱マテリアル㈱と共同で飲料用アルミ缶製造・販売会社であるユニバーサル製缶㈱設立
2006年	日本キャンパック　利根川工場竣工

昭和30年代の北海製罐
函館工場と北洋漁業風景

経営ビジョン



1．容器･充填を通じて社会･文化に貢献する事をグループのアイデンティティーとし、かつ、スピード感に溢れ、透明性の高い連邦型経営を推し進める事により、グループ企業価値･株主価値の最大化を図る。

2．品質本位に最善の努力を行い、最高の商品を提供する企業グループとして特徴ある技術･ビジネスモデル等の開発に努め、かつ、地球環境を大切とし広く社会･経済の発展に寄与する。

事業概要

トーモク
（段ボール・紙器事業等）
東証1部上場（3946）

親密なパートナー

ホッカンホールディングス
（持株会社）

持分法適用会社

トーウンサービス
（物流事業）
ユニバーサル製缶
（飲料缶事業）

北海製罐
（容器事業）

日本キャンパック
（充填事業）

オーエスマシナリー
（機械製作事業）

昭和製器
（飲料缶・食缶）
日東製器
（食缶・エアゾール）
東都成型
（化成品容器）
ワークサービス
（請負事業）

西日本キャンパック
（充填事業）
日本キャンパック
マレーシア
（充填事業）
Kian Joo Canpack
(Vietnam)
（充填事業）

ホッカンホールディングス本社

本社と各社工場

ホッカンホールディングス　東京都

日本キャンパック

群馬県	第一工場
	第二工場
	赤城工場
	利根川工場
岐阜県	西日本キャンパック
マレーシア	日本キャンパックマレーシア
ベトナム	Kian Joo Canpack (Vietnam)

北海製罐

北海道	小樽工場 (昭和製器)
群馬県	明和工場 (日東製器)
	千代田工場
	館林事業所
	東都成型
埼玉県	岩槻工場
	中央研究所
	ワークサービス
滋賀県	滋賀事業所

オーエスマシナリー

北海道	小樽工場
群馬県	群馬工場

日本キャンパック　赤城工場

オーエスマシナリー　群馬工場

北海製罐　岩槻工場

[参考] 経営成績

要約連結貸借対照表

単位：百万円、％

	2007年3月期		2006年3月期		2005年3月期	
		構成比		構成比		構成比
流動資産	55,072	37.6	54,306	34.9	57,980	36.9
預金・現金	3,799	2.6	6,083	3.9	7,131	4.5
売上債権	39,114	26.7	36,254	23.3	36,528	23.2
棚卸資産	8,465	5.8	8,345	5.4	10,971	7.0
固定資産	91,372	62.4	101,398	65.1	99,262	63.1
有形固定資産	67,694	46.3	72,088	46.3	78,428	49.9
総資産	146,445	100.0	155,704	100.0	157,243	100.0
流動負債	73,722	50.4	72,177	46.3	72,804	46.3
買入債権	29,454	20.1	30,371	19.5	28,272	18.0
短期借入金	37,887	25.9	32,559	20.9	38,919	24.8
固定負債	30,201	20.6	39,852	25.6	42,817	27.2
長期借入金	25,316	17.3	33,320	21.4	33,884	21.5
負債合計	103,923	71.0	112,030	71.9	115,621	73.5
資本合計	42,521	29.0	41,995	27.0	40,075	25.5

要約連結損益計算書

単位：百万円、％

	2007年3月期	前期比	2006年3月期	前期比	2005年3月期	前期比
売上高	160,892	0.5	160,067	▲2.4	163,999	4.4
売上原価	145,067	1.3	143,252	▲2.8	147,303	5.2
売上総利益	15,824	▲ 5.9	16,814	0.7	16,695	▲ 2.0
販管費	12,171	▲ 8.6	13,312	▲ 5.4	14,070	▲ 0.1
営業利益	3,653	4.3	3,502	33.4	2,625	▲ 11.3
営業外収益	1,110	140.3	462	▲ 39.9	769	▲ 9.3
営業外費用	2,260	6.0	2,132	56.1	1,366	▲ 8.8
経常利益	2,503	36.6	1,831	▲ 9.7	2,028	▲ 12.3
特別利益	1,244	▲ 73.1	4,631	620.2	643	▲ 36.5
特別損失	808	▲ 71.6	2,843	152.0	1,128	▲ 32.5
税引前利益	2,939	▲ 18.8	3,619	134.4	1,544	▲ 6.7
当期純利益	931	▲ 19.7	1,160	11.8	1,038	▲ 14.0

要約連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円

	2007年3月期	2006年3月期	2005年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	8,970	13,950	13,516
税引前当期純利益	2,939	3,619	1,544
減価償却費	9,134	9,024	11,176
支払利息	871	842	1,078
有形固定資産除売却損益	339	418	692
売上債権の増減額	▲ 2,943	▲ 3,954	929
棚卸資産の増減額	▲ 119	225	▲ 1,904
仕入債務の増減額	▲ 916	8,404	2,083
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 4,326	▲ 16,253	▲ 7,082
有形固定資産の取得による支出	▲ 5,284	▲ 17,750	▲ 6,947
有形固定資産の売却による収入	74	77	415
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 6,984	1,687	▲ 8,450
短期借入金の純増減額	▲ 3,484	▲ 315	▲ 2,082
長期借入金の純増減額	▲ 2,973	▲1,250	▲ 5,845
現金及び現金同等物の増減額	▲ 2,339	▲ 1,046	▲ 2,016
現金及び現金同等物の期末残高	3,743	6,083	7,130

ホッカンホールディングス　グループ会社

西日本キャンパック株式会社

売上高　：　209億円

本　店　：　岐阜県

事業内容：　清涼飲料水に受託製造及び販売

オーエスマシナリー株式会社

売上高　：　71億円

本　店　：　北海道

事業内容：　各種機械・設備の製造、販売他

＊両社共2006年度実績数値

当資料に記載された内容は、2007年12月現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
また、業績見通し等の数値はその正確性を保証するものではありません。
投資に際しての最終的なご判断は、ご自身でなされるようお願い致します。

お問合せ先：
ホッカンホールディングス株式会社
常務取締役　工藤　常史
TEL：03－3213－5111